

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(日本史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名: 日本史概説A(日本史学専攻)

担当教員: 西川 広平

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JH1-F103

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:00:15 更新者: AA1732

更新日時: 2023-12-16 15:30:00

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現在の歴史学研究において、日本史がどのように理解され、関心が持たれているのかを紹介する授業です。歴史上の事象を、現代社会の状況と比較して捉えることにより、新たな価値観を考えるきっかけとなる内容とします。対象範囲は、ヤマト王権成立期(4世紀)から江戸幕府成立期(17世紀初頭)までとなります(古代史～中世史)。

科目目的

古代史・中世史における歴史学研究の成果を通して、現代社会の常識を相対化し、歴史上の事項から新たな価値観を考えるために必要な知識の修得を目的とします。

到達目標

高等学校までに学んできた日本史の内容が、様々な見解がある中から、どのように成立してきたのかを理解するとともに、歴史学研究の成果から現代社会の課題を考える力を養うことをめざします。

授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容の説明)、ヤマト王権の成立
- 第2回 律令国家への道のり
- 第3回 平安京と摂関政治
- 第4回 中世の萌芽 院政と荘園公領制
- 第5回 治承・寿永の内乱と承久の乱
- 第6回 執権政治の推移と得宗専制
- 第7回 モンゴル襲来と鎌倉幕府の滅亡
- 第8回 古代・中世の社会を考える
- 第9回 南北朝の内乱
- 第10回 室町将軍と守護・大名
- 第11回 列島東西における戦国争乱の始まり
- 第12回 戦国大名の展開
- 第13回 天下統一への推移 織豊政権と江戸幕府
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 30% 授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力

レポート	0%
平常点	70% 出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの小テストやレポート機能を使用した双方向型授業の併用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

オフィスアワー

その他特記事項

各回の授業の冒頭では、各時代を代表する歴史上の人物を紹介します。また授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から古代史・中世史に関心を払うことを期待します。

参考URL

備考

科目名： 日本史概説B(日本史学専攻)**担当教員： 鈴木 祥**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 金1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JH1-F104

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:16 更新者： AD0399

更新日時： 2024-01-07 11:24:10

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では近世（17世紀初頭～）から現代にいたる日本の歴史を「ヒトの移動」という視点から概観する。高校日本史で学習する政治、経済、社会、外交に関する重要事項を復習しつつ、「日本に来た外国人」および「日本を出た日本人」が日本史に与えた影響について考察する。

科目目的

一般に日本史（近世～現代）を語る際、「日本に来た外国人」および「日本を出た日本人」をめぐる問題が取り扱われることは多くない。本授業では歴史研究の手法によりこれらの問題について学ぶことで、学生が日本史の専門的学識を深めることを目的とする。

一方、「ヒトの移動」をめぐる問題（移民、難民、観光など）は多くの国・地域の人々にとって身近な課題でもある。本授業では日本史の事例を通じて、学生がグローバル社会のなかで必要な教養を身に付けることもあわせて目指したい。

到達目標

本授業の到達目標は以下の通り。

- ・専門的な手法・視点により日本の歴史を概観する基礎を修得すること。
- ・過去の経験から多様化・国際化が進む現代社会を理解する力を養うこと。

授業計画と内容

1. ガイダンス：授業の進め方
2. 17～19世紀半ば：「鎖国」日本とヒトの移動
3. 1850～1860年代：「鎖国」の終わりと通商のはじまり
4. 1870～1890年代：不平等条約と外国人管轄
5. 1880～1890年代：内地雑居論と移民・植民論
6. 1880～1900年代：日本人のハワイ・アメリカ移民
7. 1910～1920年代：アメリカにおける日本人排斥
8. 1920～1940年代：日本における中国人・朝鮮人労働者
9. 1920～1940年代：日本人のブラジル・満州移民
10. 1930～1940年代：日米開戦とアメリカの日系人
11. 特論：近代日本とからゆきさん
12. 1950～1970年代：戦後日本の移民再開と高度経済成長
13. 1980～現代：現代日本と外国人
14. 総括：近世～現代の日本をめぐるヒトの移動を振り返る

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	30%	論述試験を行う。授業の理解度および課題に対する考察力・表現力を評価する。
レポート	0%	
平常点	70%	授業への参加および毎授業後のショートレポート（manabaで提出）の内容を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- 以下に該当する者はE判定とする。
- ・出席率が70%に満たない者。
 - ・期末試験を受験しなかった者。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- テキストは使用しない（毎回レジュメを配布）。
参考文献は毎回授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

大学では単に講義を聴くだけの受け身の姿勢ではなく、主体的に学び続ける力が求められる。本授業については各自毎授業後に復習を行い、将来の卒業論文執筆に向けて自身の問題関心や研究テーマを考えるきっかけにしてもらいたい。
また、過去に対する理解を深めるには現代に対する理解が不可欠である。国内外の時事問題にも幅広く目配せしつつ授業に臨むことを期待する。

参考URL

備考

科目名： 日本古代史A**担当教員： 志村 佳名子**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 金1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F201

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:22 更新者：XEA402

更新日時：2024-01-09 15:38:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の「国家」としての本格的な歩みの始まりは、古代史分野で扱うことになるが、近年古代史は新たな史料の発見や発掘調査の進展、グローバルな視点による研究視野の拡大により、以前の古代史像から大きく変化している。それに伴い、教科書の記述も時代とともに少しずつ記載内容が変化している。このような状況をふまえ、本講義では日本の古代国家の形成過程における各論点について、史料をもとに最新の研究成果を参照しながら解説する。主として大化前代～奈良時代を中心とする政治制度の形成とその展開過程の学習を通して、日本の歴史・文化を特徴づける政治制度の基層と、それに付随する日本文化についての理解を深め、古代を複眼的に考察する力を養う。

科目目的

日本の古代国家形成期における支配制度と文化の考察を通して、日本古代史および古代の文化に関する専門的知識を身に付けるとともに、多角的・客観的な歴史認識を涵養する。

到達目標

- ・日本の国家形成期に関する専門的知識を修得し、史料にもとづいて客観的に古代史の各論点を考察できるようになる。
- ・日本古代の歴史と文化を相対化する視点を養い、実社会の様々な問題を歴史的視点から考えられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスー日本古代史研究へのいざない
- 第2回 古代王権の誕生
- 第3回 ヤマト王権の拡張と国際化
- 第4回 大化改新と東アジア
- 第5回 「古代日本」の成立
- 第6回 律令体制の成立と平城京
- 第7回 律令国家の法と社会
- 第8回 平城京の生活
- 第9回 奈良時代の地方社会
- 第10回 政変・天災と仏教ー「鎮護国家」の思想
- 第11回 天平文化と古代の思想
- 第12回 奈良の都の終焉と皇統の転換
- 第13回 古代史料の特色
- 第14回 まとめー日本古代史を考える視座

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容への質問・意見をmanaba(アンケート)に提出すること。講義の中で紹介する参考文献や関連する文献を読み、積極的に講義内容の理解に努めることが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	50%	授業内容と課題をよく理解し、論理的に説明できているか。先行研究をふまえて、課題について適切に論述できているかを評価する。
平常点	50%	授業内容を理解し、それをふまえた質問・意見を書いているか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

授業後の質問・意見の提出が全開講回数半数に満たない場合は、E判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回レジュメを配布する。

- (参考文献)
- ・寺沢薫ほか『日本の歴史』2～5巻 (講談社、2000～2001年/学術文庫版、2008～2009年)
- ・大津透ほか『天皇の歴史』1～2巻 (講談社、2010～2011年/学術文庫版、2017～2018年)
- ・石川日出志ほか『シリーズ日本古代史』1～4 (岩波新書、2010～2011年)
- ・吉村武彦編『新版 古代史の基礎知識』 (角川書店、2020年)
- その他、授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 日本古代史B**担当教員： 志村 佳名子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 金1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー： LE-JH2-F202

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:23

更新者： XEA402

更新日時： 2024-01-09 16:53:01

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

京の都を舞台に展開した平安時代は、古代国家の完成期であると同時に、次の時代への転換期でもあった。400年の長きにわたって続いたこの時代は、律令国家の理想の先に、日本的な政治構造が一つの到達を迎えた時期ともいえる。本講義では、平安時代の政治制度と王朝文化の形成過程を史料をもとに辿り、古代・中世の転換期に生じた諸課題を捉え直し、平安時代を考えるために必要な知識と視点について考える。また、平安時代の史料の講読を通して、平安時代の生活や文化にも触れる。

科目目的

日本の古代から中世への移行期における政治制度と文化の考察を通して、平安時代史および当該期の文化に関する専門的知識を身に付けるとともに、多角的・客観的な歴史認識を涵養する。

到達目標

- ・日本の古代から中世移行期に関する専門的知識を修得し、史料にもとづいて客観的に平安時代史の各論点を考察できるようになる。
- ・日本の古代から中世移行期にかけての歴史と文化を相対化する視点を養い、実社会の様々な問題を歴史的視点から考えられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスー平安時代史の諸問題
- 第2回 山背遷都ー長岡京へ
- 第3回 平安京の成立
- 第4回 平安時代の政治過程
- 第5回 摂関政治の展開
- 第6回 宮廷儀礼と王朝文化
- 第7回 摂関期の地方社会
- 第8回 対外関係と唐風／国風文化
- 第9回 王権と社会の変化ー古代から中世へ
- 第10回 平安時代の信仰と思想
- 第11回 日記に見る平安貴族1貴族の生活
- 第12回 日記に見る平安貴族2政治の舞台裏
- 第13回 日記に見る平安貴族3儀式と政務
- 第14回 まとめー古代中世移行期を考える視座

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容への質問・意見をmanaba（アンケート）に提出すること。講義の中で紹介する参考文献や関連する文献を読み、積極的に講義内容の理解に努めることが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 50%

授業内容と課題をよく理解し、論理的に説明できているか。先行研究をふまえて、課題について適切に論述

できているかを評価する。

平常点 50% 授業内容を理解し、それをふまえた質問・意見を書いているか。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業後の質問・意見の提出が全開講回数半数に満たない場合は、E判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回レジュメを配布する。

(参考文献)

- ・土田直鎮『日本の歴史5 王朝の貴族』(中央公論社、1965年/中公文庫〔改版〕2004年)
 - ・橋本義彦『日本の歴史文庫5 貴族の世紀』(講談社、1975年)
 - ・坂上康俊ほか『日本の歴史』5~7巻(講談社、2001~2002年/学術文庫版、2009年)
 - ・佐々木恵介ほか『天皇の歴史』3~4巻(講談社、2011年/学術文庫版、2018年)
 - ・川尻秋生ほか『シリーズ日本古代史』5~6(岩波新書、2011年)
- その他、授業時に適宜紹介する。

オフィスパワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本中世史A**担当教員： 西川 広平**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F203

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:23 更新者：AA1732

更新日時：2023-12-16 16:34:12

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

武士と武家政権をキーワードに日本中世史の研究動向を整理するとともに、中央から見た中世史と地方から見た中世史との比較を通して、中世社会の多様性を考えます。特に地方から見た中世の事例として、中世を代表する武家である甲斐武田氏を取り上げます。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うこと。受講者の積極的、主体的な参加を期待します。

科目目的

日本中世史研究の歩みと課題を学ぶとともに、中央と地方から見た時代像を踏まえた中世社会の多様性を考えることを通じて、中世史研究の意義を理解することを目的とします。

到達目標

日本中世史研究の軌跡を理解するとともに、多様な視点から中世社会を捉える思考力を養い、通史的に中世の時代像の把握を図りつつ、中世史研究に必要な見識を修得することをめざします。

授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション（授業内容の説明、統合と分立の中世社会）
- 第2回 武士とは何か、在地領主制論から職能武士論へ
- 第3回 戦国大名の顛末 大名領国制論と戦国期守護論
- 第4回 義光・流源氏と東国／前九年・後三年合戦と義家・流源氏
- 第5回 治承・寿永の内乱と武田信義／治承・寿永の内乱と源頼朝
- 第6回 鎌倉御家人における武田氏の地位／執権政治と得宗専制
- 第7回 武田信武と安芸・甲斐武田家の成立／足利尊氏と南北朝内乱
- 第8回 甲斐武田家の没落と再興／室町幕府・鎌倉府の抗争
- 第9回 武田信昌と戦国甲斐の幕開け／列島東西の内乱勃発と明応の政変
- 第10回 武田信虎と甲斐国の統一／戦国大名の成立
- 第11回 武田信玄による武田氏の再編／戦国大名間の抗争
- 第12回 武田勝頼の滅亡／天下統一と惣無事
- 第13回 武田一族の中世／武家政権の展開
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	30%	授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力
レポート	0%	
平常点	70%	出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの小テストやレポート機能を使用した双方向型授業の併用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

【参考文献】

岡野友彦『源氏長者 武家政権の系譜』(吉川弘文館、2018年)
西川広平『武田一族の中世』(吉川弘文館、2023年)

オフィスアワー

その他特記事項

日本中世史Bもあわせて履修することをお勧めします。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎します。授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。各回ともに、manabaのレポート機能により課題を提出してください。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うことを期待します。

参考URL

備考

科目名： 日本中世史B**担当教員： 西川 広平**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー： LE-JH2-F204

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:24 更新者： AA1732

更新日時： 2023-12-16 16:34:44

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中世は、繰り返し発生する災害と争乱に人々が対応を迫られた時代でした。災害と争乱をキーワードに日本中世史の研究動向を整理するとともに、自然と人、人と人との関わりを通して、中世の社会を考えます。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うこと。受講者の積極的、主体的な参加を期待します。

科目目的

災害と争乱を通して日本中世史研究の近年の成果を学ぶとともに、自然と人間との相互関係を踏まえた中世社会の実像を考えることを通して、中世史研究の意義を理解することを目的とします。

到達目標

日本中世史研究の近年の成果を理解するとともに、多様な視点から中世社会を捉える思考力を養い、テーマを設けて中世の時代像の把握を図りつつ、中世史研究に必要な見識を修得することをめざします。

授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション (授業内容の説明、災害と争乱の中世社会)
- 第2回 社会史研究に見る災害と争乱
- 第3回 気候変動と中世の社会
- 第4回 中世荘園の開発と災害 寄進地系荘園論と立荘論
- 第5回 中世村落の開発と災害 景観論・生業史に学ぶ
- 第6回 都市・経済活動と災害
- 第7回 災害と権力 徳政思想
- 第8回 開発・災害と寺社・信仰
- 第9回 争乱と移動する武士団 治承・寿永の内乱と南北朝の内乱に学ぶ
- 第10回 戦国の争乱と「自立(自律)」する社会 移行期村落論と地域社会論
- 第11回 争乱の調停 織豊政権と惣無事
- 第12回 争乱と外交 モンゴル襲来と朝鮮出兵
- 第13回 記録された災害と争乱
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	30%	授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力
レポート	0%	
平常点	70%	出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

【参考文献】

藤木久志『村と領主の戦国世界』（東京大学出版会、1997年）
藤木久志『新版 雑兵たちの戦場—中世の傭兵と奴隷狩り—』（朝日新聞社、2005年）
峰岸純夫『中世 災害・戦乱の社会史（新装版）』（吉川弘文館、2011年）
西川広平『中近世の資源と災害』（吉川弘文館、2023年）

オフィスアワー

その他特記事項

日本中世史Aもあわせて履修することをお勧めします。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎します。授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。各回ともに、manabaのレポート機能により課題を提出してください。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うことを期待します。

参考URL

備考

科目名：考古学A**担当教員：小林 謙一**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-AR2-F205

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:24 更新者：AA0827

更新日時：2023-12-27 14:34:42

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本歴史を理解し、日本文化を考えていく上で、物質文化による再構成としての考古学的手法は重要である。考古学研究を目指すもの、歴史研究を目指すものにとって必要不可欠と言える考古学的研究法の基礎を理解してもらう目的で、概括的に講義する。同時に博物館学芸員を目指すものにとっても、博物館資料を理解し研究し修復・保管・演示などで扱っていくには、考古学的素養は不可欠であり、一般的なことから専門的なことまで講義したい。考古学Aでは、基礎的な考古学研究法の理解を得ることを目標とする。なお、具体的なケーススタディでは、日本先史時代を中心とする。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群（選択）として位置付けられていることから、学習を通じて、歴史を学ぶ上で必要な考古学の基本的な考え方を、日本列島の先史時代を題材に習得することを目的とする。
また、学生が学位授与の方針で示す「専門的知識」や「複眼的思考」を修得することを目的とする。

到達目標

基礎的な考古学研究法（型式論、層位論、編年）および考古学史について理解する。

授業計画と内容

- 【第1回】考古学とはなにか・遺跡調査法・発掘、縄文時代の理解を巡って
- 【第2回】考古学研究法1 遺物の種類・石器研究法
- 【第3回】考古学研究法2 土器研究法 層位と型式（『縄文社会研究の新視点』1章）
- 【第4回】考古学研究法3 型式学研究・土器型式論、縄文土器研究の略史
- 【第5回】考古学研究法4 考古学と自然科学（産地推定など）
- 【第6回】考古学研究法5 炭素14年代測定原理（『縄文時代の実年代講座』第2～5講）
- 【第7回】考古学史1 明治・大正期の人類学研究と考古学
- 【第8回】考古学史2 戦前・戦後期の土器編年研究史（山内清男）
- 【第9回】考古学史3 縄文集落研究史（和島集落論・水野集落論）
- 【第10回】日本考古学の諸問題 縄文土器編年と年代研究（『縄文社会研究の新視点』2章）
- 【第11回】日本考古学の諸問題 縄文中期環状集落論・堅穴住居ライフサイクル論
- 【第12回】日本考古学の諸問題 縄文中期大橋集落フェイズ論
- 【第13回】日本考古学の諸問題 年代測定から見た縄文集落（『縄文社会研究の新視点』3章）
- 【第14回】日本考古学の諸問題 年代測定から見た縄文文化の動態（『縄文社会研究の新視点』4章）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プライベートな時間に、近隣の博物館・資料館に足を運び、興味ある特別展・企画展の見学に努めてほしい。また、考古学・文化財などに関する新聞・雑誌記事やテレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 定期試験は実施しない。数回の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	50% 授業の受講態度の状況と、毎回の受講後の小テストの内容を基準とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件: 課題レポートを提出していない受講者は、評価の対象外とするので、十分に注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事した経験がある。

実務経験に関連する授業内容

発掘調査の方法を紹介するほか、考古学・埋蔵文化財に関する実践、文化財行政に関する運営と課題などについても講義において触れる。

テキスト・参考文献等

- (主要参考文献)
- 『縄紋社会研究の新視点』(小林謙一著、六一書房, 2019年第2版) ISBN978-4-86445-012-6
- 『縄紋時代の実年代講座』(小林謙一著、同成社, 2019) ISBN978-4-88621-815-5
- *レポートなどで利用することがあります。

その他参考文献

- 小林達雄編『考古学ハンドブック』新書館、2007年(ハンドブックシリーズ) ISBN978-4-403-25088-0
- 鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年 ISBN4-13-022051-9
- 鈴木公雄『読む・知る・愉しむ 考古学がわかる事典』日本実業出版社、1997年 ISBN4-534-02618-8
- 鈴木公雄『考古学はどんな学問か』東京大学出版会、2005年 ISBN4-13-023052-2
- チャイルド、V. G 著、近藤義郎訳『考古学の方法』河出書房新社、1981年
- ラウス、アーヴィング著、鈴木公雄訳『先史学の基礎理論』雄山閣、1974年

オフィスアワー

その他特記事項

後期・考古学Bを続けて履修することが望ましい。

参考URL

<http://www.kkenichi001k.r.chuo-u.ac.jp/>

備考

科目名： 考古学B**担当教員： 小林 謙一**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 月1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-AR2-F206

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:25 更新者：AA0827

更新日時：2023-12-27 15:08:56

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本歴史を構築し、日本文化を考えていくのに物質文化による再構成としての考古学的手法は重要である。考古学研究を目指すもの、歴史研究を目指すものにとって必要不可欠と言える考古学的研究法の基礎を理解してもらう目的で、学史を含め概括的に講義する。同時に博物館学芸員を目指すものにとっても、博物館資料を理解し研究し修復・保管・演示などで扱っていくには、考古学的素養は不可欠であり、一般的なことから専門なことまで講義したい。なお、具体的なケーススタディでは、縄紋時代など日本先史時代を中心とするが必要に応じて対象とする範囲を広げる。

科目目的

考古学の概要を理解して貰う。

到達目標

考古学の基本的な方法論を理解する。

授業計画と内容

- 【第1回】 考古文化の研究 縄紋はいつから？（『縄紋時代の実年代講座』10講）
- 【第2回】 考古文化の研究 初現期土器と東アジア（『縄紋時代の実年代講座』10講）
- 【第3回】 考古文化の研究 貝塚遺跡・岩陰遺跡土器型式編年研究、
- 【第4回】 考古文化の研究 早期～前期の土器（『縄紋時代の実年代講座』6講）
- 【第5回】 考古文化の研究 縄紋中期勝坂文化と阿玉台文化（『縄紋時代の実年代講座』7講）
- 【第6回】 考古文化の研究 縄紋中期加曾利E式・曾利式・大木式（『縄紋時代の実年代講座』7講）
- 【第7回】 考古文化の研究 縄紋後晩期土器文化、盛土・石棒・敷石（『縄紋時代の実年代講座』8・9講）
- 【第8回】 考古文化の研究 低湿地遺跡研究
- 【第9回】 考古文化の研究 縄紋の終末から弥生文化の成立（教科書13講）
- 【第10回】 考古文化の研究 弥生から古墳へ
- 【第11回】 考古文化の研究 古代国家形成過程と邪馬台国問題
- 【第12回】 日本考古学の現在 前中期旧石器ねつ造事件と考古学
- 【第13回】 日本考古学の現在 災害と考古学
- 【第14回】 日本考古学の現在 現代社会と考古学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% レポート内容
平常点	50% 小テストなど
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストを必ず受けること。指示されたレポートは必ずすべて提出すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事した経験がある。

実務経験に関連する授業内容

発掘調査の方法を紹介するほか、考古学・埋蔵文化財に関する実践、文化財行政に関する運営と課題などについても講義において触れる。

テキスト・参考文献等

(参考書)『縄紋時代の実年代講座』(小林謙一著、同成社、2019) (講義での参照のほか、レポートなどで用いる)
『縄紋社会研究の新視点』(六一書房)も参考文献として利用することが望ましい。

オフィスアワー

その他特記事項

前期・考古学Aを履修していることが望ましい。

参考URL

<http://www.kkenichi001k.r.chuo-u.ac.jp/>

備考

科目名： 日本近世史A**担当教員： 松本 剣志郎**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F207

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:25 更新者：XEC409

更新日時：2024-01-07 16:20:42

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す、専門的学識を学生が身につけることを目的とする。

到達目標

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス（都市とは何か）
- 第2回 江戸前史（地層と地形）
- 第3回 江戸城のなか（表・奥・大奥と殿中席）
- 第4回 マチの支配（町奉行と町名主）
- 第5回 マチとチョウ（大江戸八百八町）
- 第6回 町人の生活（家持・地借・店借・家守と日用）
- 第7回 寺社地の空間と社会（信仰と生業と娯楽）
- 第8回 大名屋敷のなか（御殿空間と詰人空間）
- 第9回 武家拝領屋敷の相対替（主従関係と内実売買）
- 第10回 武家抱屋敷の売買（土地の売買と所持）
- 第11回 役屋敷と近世官僚制（老中役屋敷の成立と都市社会）
- 第12回 公共空間の維持管理（道路と橋梁）
- 第13回 総括まとめ
- 第14回 到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で使用するレジメを前もってアップするので事前に読んでおくこと。授業後には、授業内容を復習すると同時に、できるだけ授業で取り上げた論文や書籍を自ら読んでみることを。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 100% 到達度を確保するため主に論述形式の試験を行う。
- レポート 0%
- 平常点 0%

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。
《参考文献》
高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ (東京大学出版会、1989～1990年)
吉田伸之編『日本の近世』9 (中央公論社、1992年)
松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』 (塙書房、2019年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本近世史B**担当教員： 松本 剣志郎**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F208

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:25 更新者：XEC409

更新日時：2024-01-07 17:42:39

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世社会は現代と何を同じくし、異にしているのか。同じようにみえても本質を異にする場合もあり、異なるようにみえて同じ志向を有していることもある。マスメディアを通じて反復・増幅されるイメージを超えて近世社会に接近したい。その際、現在につながるトピックを選び、考える素材を提供しつつ、受講生と一緒に歴史から現代を考え直してみたい。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す専門的学識を学生が身につけることを目的とする。

到達目標

- ①われわれの常識や慣習が歴史的につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
- ②江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 生まれること (長塚節『土』、子どもは「お上」のものか)
3. 老いること (十方庵の悠々自適)
4. 死ぬこと (武士道というは死ぬこととみつけたり)
5. 名づけること (ニノキンとは誰か)
6. 時を刻むこと (一日は24時間で一年は365日なのか)
7. 持つこと (土地は誰のものか)
8. 信ずること (禅画は何を伝えているか、白隠と仙厓)
9. 食べること (なぜすし屋台が生まれたか、労働と食)
10. 着ること (柳田国男『木綿以前の事』、輸入から国産へ)
11. 旗本森山孝盛の生涯①実子にして養子の屈折
12. 旗本森山孝盛の生涯②出世と隠居
13. 近世社会と現代
14. 到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で使用するレジュメを前もってアップするので事前に読んでおくこと。授業後には、授業内容を復習すると同時に、できるだけ授業で取り上げた論文や書籍を自ら読んでみることを。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100% 到達度を確認するため主に論述形式の試験を行う。
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献については授業中にその都度指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本近現代史A**担当教員： 清水 善仁**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー： LE-JH2-F209

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:25 更新者： AA2036

更新日時： 2023-12-30 10:45:11

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本史学のみならず歴史学研究において、これまででなされてきた研究の歩み(研究史)を正確に把握し、その内容を理解することは、当該研究の到達点や課題、あるいは分析手法等を知る意味で最も基礎的な作業であると同時に、これから研究を進めていくうえで不可欠なことです。本講義では、日本近現代史の主要な事象をめぐる研究史の論点について、政治・経済・社会・思想・文化といった多角的な視点からこれまでの研究動向を整理し、現状と課題および展望について概説します。

科目目的

これまでの研究の歩みを学ぶことを通じて、日本近現代史への理解を深めることはもとより、歴史的な思考と方法のための専門的な学識を身に付けることを目的とします。

到達目標

本講義で学んだ日本近現代史およびその研究史に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の研究につなげて考察し、より複眼的な思考ができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 戦後歴史学と日本近現代史研究
- 第3回 明治維新①：幕末期
- 第4回 明治維新②：明治初期
- 第5回 自由民権運動
- 第6回 大日本帝国憲法
- 第7回 日清・日露戦争
- 第8回 大正デモクラシー
- 第9回 第一次世界大戦
- 第10回 昭和初期の政治史
- 第11回 アジア・太平洋戦争
- 第12回 戦後の政治と社会
- 第13回 日本近現代史研究と史料
- 第14回 総括・まとめ：日本近現代史研究のこれから

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義で紹介する文献にあたり、復習に努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
- レポート 0%

- 平常点 30% リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回板書と資料の配布により講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本近現代史B

担当教員： 清水 善仁

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火2

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-JH2-F210

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:26 更新者： AA2036

更新日時： 2023-12-30 10:52:44

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、日本近現代史における個別の事象から一つを取り上げ、それについての通時的な概説をおこないます。今年度も昨年度に引き続き「公害からみた日本近現代史」と題して、近現代日本の代表的な社会問題である公害を取り上げます。公害と聞くと、これまで中学校や高等学校で習った「四大公害」等の戦後の公害を思い浮かべる人が多いと思いますが、実は公害は戦前から日本各地で発生しており、多くの被害をもたらした点で近現代を通じた大きな社会問題でした。日本の近代化あるいは戦後の高度経済成長の影で生じた公害の歴史を明らかにすることは、近現代の日本社会の諸相を理解するうえで重要な意義があります。そこで、講義では戦前・戦後の公害の実態について具体例を挙げつつ紹介し、それが当時の政治・経済や人々の生活に及ぼした影響を考察します。また、その際には、行政・企業・住民といったそれぞれの立場もふまえながら、近現代日本の公害の歴史を多角的な視点から検討していきます。

科目目的

公害の歴史を学ぶことにより、それが現在につながる問題でもあることを認識するとともに、近現代日本の政治・社会構造とその変容に関する専門的な知識を修得することを目的とします。

到達目標

本講義を通じて、歴史学研究の多様なアプローチの方法を知り、史料に基づいた客観的な理解・分析能力のための専門的学識を修得することを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 公害の歴史を学ぶ際の視点
- 第3回 鉱山と公害
- 第4回 都市における公害の発生
- 第5回 都市における公害の拡大と多様化
- 第6回 公害概念の形成
- 第7回 戦後復興期の公害
- 第8回 高度経済成長期の公害①：公害の全国化
- 第9回 高度経済成長期の公害②：公害反対運動
- 第10回 公害対策の展開①：公害対策基本法
- 第11回 公害対策の展開②：公害国会と環境庁の設置
- 第12回 現代の公害
- 第13回 公害の歴史を伝える取り組み
- 第14回 総括・まとめ：公害の歴史と現代

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義で配布する資料や文献にあたり、復習に努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回板書と資料の配布により講義を進めます。参考文献はそのつど紹介しますが、講義全般にかかわるものとして以下の2冊を挙げておきます。

小田康徳編『公害・環境問題史を学ぶ人のために』（世界思想社、2008年）
安藤聡彦・林美帆・丹野春香編著『公害スタディーズ』（ころから、2021年）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古文書学(1)

担当教員： 神崎 直美

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-PL2-F211

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:26 更新者： AB4011

更新日時： 2023-12-05 12:24:40

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世史研究の基礎力を養うことを目的といたしますので、当講義では近世の古文書を広義な定義でとらえます。対象としては、いわゆる古文書が主ですが、書籍や刷り物、ビジュアル史料についても扱います。近世古文書の概要を理解していただくから、その多彩な世界について、それぞれ説明します。講義に際しては、近世の古文書の原物を持参しますので、受講生に回覧して説明する時間も予定しています。

科目目的

近世史研究に不可欠である近世の古文書について、その体系を知識として学び、さらに教室で原物を見る・手に取る体験をすることにより、言葉を越えた真の理解をすることが目的です。

到達目標

受講生各自が知識として多彩な近世の古文書について語ることが可能となり、自らが近世史研究を行う際にテーマにした古文書の原物が所蔵されている史料収蔵機関を探ことができ、積極的に原物を閲覧することの大切さを認識して行動できること、さらに授業で紹介した参考書類を駆使して書籍の解題を作成できることが目標です。

授業計画と内容

- ①授業の説明
- ②近世の古文書…特徴を中心として
- ③古文書の体裁
- ④近世古文書の分類と作成主体
- ⑤幕府文書
- ⑥藩政文書…著名な藩政文書群
- ⑦藩政文書…その種類
- ⑧大名家文書…私的な古文書
- ⑨地方文書…保存の歴史、及びその種類
- ⑩地方文書…続・その種類
- ⑪寺社文書・公家文書、その他
- ⑫書籍…体裁とその種類、及び、解題作成実習 ※解題作成実習はグループワーク
- ⑬ビジュアル史料…錦絵・刷り物について
- ⑭まとめ…近世の古文書の活用について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

近世古文書に関する参考図書類を、授業の際に教室に持参して紹介・回覧します。それらの図書については、必ず各自で授業後にも充分閲覧して、使いこなせるようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 授業で説明した事項を確実に理解していることを問います。
レポート	0%

- 平常点 40% リアクションペーパーを折々に実施します。授業で修得した知識・体験を基に、各自が考察したことを問います。解題作成実習の成果も平常点の対象です。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

史料収蔵施設で実習をするかわりに、担当教員が毎時間、古文書の原物を持参して、説明・回覧します。受講生はそれを実際に手に取ることにより、様々な近世の古文書を理解していただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援(授業外学修)として、manabaを使い当科目の知識を深めることができる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

大和市文化財審議委員会委員(2012年8月～現在)

実務経験に関連する授業内容

近世古文書の保存に関する現状や実務についても、授業で具体例としてふれます。

テキスト・参考文献等

特になし。プリントを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

毎時間、古文書を手に取る体験は貴重です。説明のポイントを理解して、原物を手にしてよく眺めてください。なお、連絡事項は授業の際に教室でお伝えしますが、緊急事項はmanabaで連絡します。

参考URL

備考

科目名： 古文書学(2)

担当教員： 小林 一岳

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-PL2-F212

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:26 更新者： AD1158

更新日時： 2024-01-09 12:38:33

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史を研究するためには、史料が必要であることはもちろんです。歴史史料には文字に書かれた文字史料や、考古史料や絵画史料などの非文字史料がありますが、文書は文字史料の中でも多くの情報を得ることができる重要なものになります。しかし、文書を歴史史料として扱うためには、その様式や機能などの基礎的な知識が必要です。そのような、文書についての学問を古文書学といいます。この授業は、古文書の基礎的知識を習得するとともに、基本的な中世文書を読み解きながら、中世の古文書についての概要を把握するためのものです。文書の様式や機能を通じて、古文書の背景にある中世の国家や社会のあり方などについて学ぶことになります。古文書学(2)では、朝廷や鎌倉幕府・室町幕府、戦国大名が出した発給文書を中心に、中世国家のあり方や、国家からみた中世社会のあり方について学びます。なお、本講義は古文書の「くずし字」の読解については一部扱いますが、それを主な目的とするものではないので、その旨を了解してください。

科目目的

文学部の日本史関係科目の目的である、「日本の歴史に関する深い知識を身に付けることができる。及び様々な事柄に対する高い情報収集力・分析力を養うことができる。」ということに関連する科目です。古文書から得られる情報をその内容だけではなく、様式や機能も含めて収集・分析し、深い歴史研究につなげていく能力を育成することを目的とします。

到達目標

古文書の様式や機能について基礎的な知識を獲得し、説明することができる。古文書の様式・機能についての学びを前提として中世の国家と社会の関係を理解して説明することができる。その際、鎌倉幕府と室町幕府の違いやその特質、戦国大名権力の特質について、古文書を通して説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスー歴史資料の中の古文書
- 第2回 古文書の基礎知識ー変体漢文・くずし字・花押・料紙等
- 第3回 古文書の作成と伝来ー案文と正文・発給と受給・伝来と偽文書
- 第4回 朝廷・貴族の文書ー宣旨・官宣旨・下文
- 第5回 天皇・院の文書ー綸旨・令旨・院宣
- 第6回 鎌倉幕府の文書① 下文・御教書
- 第7回 鎌倉幕府の文書② 奉書・下知状・裁許状
- 第8回 鎌倉幕府の文書③ 訴状・問状・陳状・召文
- 第9回 室町幕府の文書① 下文・下知状・御判御教書
- 第10回 室町幕府の文書② 戦争の文書(軍勢催促状・軍忠状・着到状・感状)
- 第11回 室町幕府の文書③ 奉書・遵行状
- 第12回 戦国大名の文書① 直状・書下・判物
- 第13回 戦国大名の文書② 書状・印判状
- 第14回 授業のまとめ・レポート

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容に関する簡単な課題・レポートを提出する

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	100% 授業内容を理解した上で、説明できるかどうかを評価する。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局2003年
- ・飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』吉川弘文館2017年
- ・久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1 中世文書の流れ』山川出版社2008年
- ・荻米一志『日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法』吉川弘文館2019年
- ・小島道裕『中世の古文書入門』河出書房新社2019年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古文書学(3)

担当教員： 小林 一岳

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-PL2-F213

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:26 更新者： AD1158

更新日時： 2024-01-09 12:39:46

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史を研究するためには、史料が必要であることはもちろんです。歴史史料には文字に書かれた文字史料や、考古史料や絵画史料などの非文字史料がありますが、文書は文字史料の中でも多くの情報を得ることができる重要なものになります。

しかし、文書を歴史史料として扱うためには、その様式や機能などの基礎的な知識が必要です。そのような、文書についての学問を古文書学といいます。この授業は、古文書の基礎的知識を習得するとともに、基本的な中世文書を読み解きながら、中世の古文書についての概要を把握するためのものです。文書の様式や機能を通じて、古文書の背景にある中世の国家や社会のあり方などについて学ぶことになります。

古文書学(3)では、前期の古文書学(2)で主に扱った鎌倉幕府や室町幕府、戦国大名等の国家や権力が発給した文書に対して、主に中世の地域社会に関連する古文書を扱うことになります。

具体的には寺社に残された文書や武士に関する文書、荘園支配の文書や村関係の文書になります。それらの文書を通して中世社会の特質について学ぶことにします。

なお、本講義は古文書の「くずし字」の読解については一部扱いますが、それを主な目的とするものではないので、その旨を了解してください。

科目目的

文学部の日本史関係科目の目的である、「日本の歴史に関する深い知識を身に付けることができる。及び様々な事柄に対する高い情報収集力・分析力を養うことができる。」ということに関連する科目です。

古文書から得られる情報をその内容だけではなく、様式や機能も含めて収集・分析し、深い歴史研究につなげていく能力を育成することを目的とします。

到達目標

古文書の様式や機能について基礎的な知識を獲得し、説明することができる。古文書の様式・機能についての学びを前提として、中世の国家と社会の関係を理解して説明することができる。その際特に、寺社に残される文書や武士に関する文書、荘園支配のための文書や村関係の文書などを通して、中世社会の特質について理解し、古文書を通して説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 地域社会の中の古文書
- 第2回 寺社の文書① 起請文
- 第3回 寺社の文書② 寄進状
- 第4回 武士の文書① 譲状
- 第5回 武士の文書② 置文と一門評定
- 第6回 武士の文書③ 書状(高幡不動胎内文書)
- 第7回 武士の文書④ 一揆契状
- 第8回 荘園の文書① 荘園支配の文書(検注帳・算用状・結解状・請文)
- 第9回 荘園の文書② 荘官関係文書
- 第10回 荘園の文書③ 荘家の一揆(沙汰人百姓等申状)
- 第11回 村と一揆の文書① 村の紛争文書
- 第12回 村と一揆の文書② 村掟
- 第13回 村と一揆の文書③ 惣国一揆掟
- 第14回 授業のまとめ(偽文書)・レポート

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容に関する簡単な課題・レポートを提出する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	100% 授業内容を理解した上で、説明できるかどうかを評価する。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局2003年
- ・飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』吉川弘文館2017年
- ・久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1 中世文書の流れ』2008年
- ・荻米一志『日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法』吉川弘文館2019年
- ・小島道裕『中世の古文書入門』河出書房新社2019年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本文化史A

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水2

担当教員： 小野 一之

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F401

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:27 更新者：AD1156

更新日時：2024-01-03 13:51:53

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の古代から中世に至る文化の展開を、個別の事象や地域史からの視点でとりあげ、文化史の流れを考えていきます。文献史料を中心にしながらも、パワポで図版を多用し美術作品や史跡にもあたりながら講義します。毎回の授業終了後に、感想・意見・質問等を記入したリアクションペーパーを提出してもらいます。

科目目的

文化史を歴史のわき役ではなく、政治・経済・社会の動きと連動した事象として捉え、総合的に歴史を俯瞰していけるようになることを目的とします。

到達目標

日本文化史を文献史料と資料・史跡に基づいて考え、今日的な課題に対しても考えが持てるようになることを目標とします。また今後の文化事業・文化財保全業務・博物館事業にあたる際の基礎学習になることも目標とします。

授業計画と内容

- ① はじめに—日本文化史の方法
- ② 祭礼—基層文化を探る
- ③ 聖徳太子—もう一つの日本文化史
- ④ 都城—都市文化史の展開
- ⑤ 寺院—飛鳥寺と元興寺、古代から中世へ
- ⑥ 仏像—興福寺・戦う寺の仏教文化
- ⑦ 庭園—宮殿の庭・寺院の庭
- ⑧ 墓—天皇陵古墳と中世民衆墓
- ⑨ 旅—旅する官人・僧・民衆
- ⑩ 多摩川—地域文化史①
- ⑪ 東山道と鎌倉街道—地域文化史②
- ⑫ 万葉集東歌と防人歌—地域文化史③
- ⑬ 共生の文化史—縄文・渡来人・蝦夷
- ⑭ まとめ—古代・中世の文化形成

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回、関連する図書、博物館・美術館、寺社・史跡などを随時紹介しますので、関心のあるテーマについて理解を深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	課題に対する理解とオリジナリティを評価します。
平常点	60%	リアクションペーパー等による講義に対する参加度を評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

府中市郷土の森博物館で学芸員・館長 (2021年度まで。現在は府中市・入間市の文化財保護審議会委員などを兼務) として、博物館運営・文化財活用・地域振興などに携わってきました。

実務経験に関連する授業内容

地域の文化財資料の調査や保全・活用の経験から文化史の視点を提示します。

テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しませんが、毎回、参考文献を紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本文化史B

担当教員： 神崎 直美

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-JH3-F402

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:27 更新者： AB4011

更新日時： 2023-12-05 12:03:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

幕末の大老として名高い井伊直弼の姉であり、延岡藩内藤家の奥方となった充姫一後の充真院一は、文才・画才に恵まれ、著作物を執筆した稀な大名夫人です。充真院は信仰心が厚く、先祖に対する崇敬の思いも深く、菩提寺に参詣したり、転居のための旅(江戸・延岡)の途中で、数多くの寺社に参詣しました。充真院を具体的事例として、大名夫人の寺社参詣について理解を深めます。

なお、充真院が訪れた寺社について、教員が現地を訪れて撮影した写真データを映写する時間を各寺社参詣の最後の回に設定し、仮想寺社参詣を体験していただきます。

科目目的

近世史研究において、未だ実証的な研究が乏しく不明な点が多い大名夫人について、当科目では寺社参詣の具体例を紀行文や藩政文書から明らかにして、近世女性史・文化史の知識を習得することが目的です。さらには女性史・文化史研究の方法論を考察することも目的です。

到達目標

近世の女性史・文化史の新知識を修得すること、史料の探し方や方法論を知り、考察して、自らの研究の際に応用できることが目標です。さらに主人公である充真院の人物像を寺社参詣の実態・姿勢から知り、前向きな生き方をはじめ、各自の人生の糧にすることも目標です。

授業計画と内容

- | | | |
|------|-------------------------|--------------------------------------|
| 第1回 | 大名夫人と寺社参詣、及び、充真院の人生の概略① | |
| 第2回 | 充真院の人生の概略② | |
| 第3回 | 相模国鎌倉・光明寺①…菩提寺の光明寺 | |
| 第4回 | ” | ②…旅の準備 |
| 第5回 | ” | ③…鎌倉での日々 ※現地撮影画像映写…仮想光明寺参詣 |
| 第6回 | 三河国大樹寺・西光寺①…三河国と内藤家の所縁 | |
| 第7回 | ” | ②…大樹寺と信楽院 |
| 第8回 | ” | ③…西光寺と内藤家墓所
※現地撮影画像映写…仮想大樹寺・西光寺参詣 |
| 第9回 | 大坂寺社参詣①…高津宮・新清水寺・安居天神 | |
| 第10回 | ” | ②…四天王寺・住吉大社 ※現地撮影画像映写…仮想大坂寺社参詣 |
| 第11回 | 讃岐国金毘羅①…金毘羅信仰と大名家 | |
| 第12回 | ” | ②…初めての参詣 |
| 第13回 | ” | ③…2度目の参詣 ※現地撮影画像映写…仮想金毘羅参詣 |
| 第14回 | 寺社参詣を通して明らかとなった充真院の人物像 | |

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	授業で説明した内容を正しく理解しているかを判定します。
レポート	0%	
平常点	50%	授業の冒頭に、前回の復習としてQ&Aを実施します。積極的に発言してください。学期中に3,4回のグループディスカッション、及びリアクションペーパーを実施しますので、問題意識を持って取り組んでください。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

学期中に3,4回、グループディスカッションを実施します。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援(授業外学修)として、manabaを使い当科目の知識を深めることができます。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストを用いて授業を進めます。テキストは下記の通りです。
神崎直美著『幕末大名夫人の寺社参詣一日向国延岡藩内藤充真院・統一』岩田書院 2021年4月刊行
補足プリントも配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

テキストは必ず講義の際に必携してください。連絡事項は授業教室でお伝えしますが、緊急事項についてはmanabaで連絡します。

参考URL

備考

科目名： 日本思想史A

担当教員： 宮田 純

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木6

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-JH3-F403

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:27 更新者： AD1514

更新日時： 2023-11-19 12:59:49

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

テーマ：歴史書を基礎資料としてとりあげながら、古代～近代における諸相との相関関係を整理し、ひいては、日本思想史の通史的な理解を深化させる。歴史書を取りまく時代背景やその作者、さらにはその影響などについて触れた内容を各回ごとに伝えてゆく。古文書を読む機会が多い授業となります。

授業形態：講義形式を採用するが、ディスカッションの時間も確保したい。

科目目的

思想と時代背景の相関関係についての知見を、歴史学の素養ならびに歴史書についての理解に基づきながら深化させる。

到達目標

受講生が思想史の理解に基づきながら、日々の反応力や判断力に応用できるようにする。

授業計画と内容

概略：前期の授業は日本思想史の通史的理解を深める内容となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本思想史の通史的理解について
- 第3回 古代社会の歴史書
- 第4回 中世社会の歴史書
- 第5回 戦国時代と歴史書
- 第6回 中間の小括
- 第7回 織豊政権期と歴史書
- 第8回 近世前期の歴史書
- 第9回 近世中期の歴史書
- 第10回 近世後期の歴史書
- 第11回 近代の歴史書
- 第12回 日本思想史の現代性
- 第13回 日本思想史を考える
- 第14回 総括・まとめ—日本思想史における歴史書の意義—

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% ペーパーの使用による試験を実施。
- レポート 0%

平常点 30% リアクションペーパーの作成。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席の場合は単位認定が不可能となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとしてレジュメを配布します。参考書は適宜、紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

講義中は私語厳禁。先々の社会人としての行動を見すえて、さまざまなことに配慮できる姿勢を強く意識してください。
★要注意★歴史的な文献資料(古文書・翻刻版・くずし字など)を多く読む機会となります。担当の割り当てもあるので、日本史・思想史に関する専門的知識を知的基盤(史学科の2年生以上の修学水準がのぞましい)として準備しておく必要があります。

参考URL

備考

科目名： 日本思想史B

担当教員： 宮田 純

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 木6

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-JH3-F404

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:27 更新者： AD1514

更新日時： 2023-11-19 12:58:54

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

テーマ：近世日本における海外情報に関する資料をとりあげながら、近世社会における諸相との相関関係を整理し、ひいては、近世思想の通史的な理解を深化させる。海外情報やそれをとりまく時代背景や影響などについて触れた内容を各回ごとに伝えてゆく。古文書を多く読む授業となります。

授業形態：講義形式を採用するが、ディスカッションの時間も確保したい。

科目目的

思想と時代背景の相関関係についての知見を、歴史学の素養ならびに近世における海外情報についての理解に基づきながら深化させる。

到達目標

受講生が近世思想の理解に基づきながら、日々の反応力や判断力を応用できるようにする。

授業計画と内容

概略：後期の授業は近世思想の通史的な理解を深める内容となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際社会の中の近世日本
- 第3回 織豊政権と海外情報
- 第4回 安土桃山文化と海外情報
- 第5回 徳川幕藩体制初期と海外情報
- 第6回 中間の小括
- 第7回 徳川幕藩体制中期と海外情報
- 第8回 経世論と海外情報
- 第9回 海防論と海外情報
- 第10回 科学技術と海外情報
- 第11回 開国の影響下における諸思想の展開
- 第12回 近世思想の現代性
- 第13回 近世思想を考える
- 第14回 総括・まとめ—近世思想における海外情報の意義—

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% ペーパーの使用による試験を実施。
- レポート 0%

平常点 30% リアクションペーパーの作成。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席の場合は単位認定が不可能となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとしてレジュメを配布します。参考書は適宜、紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

講義中は私語厳禁。先々の社会人としての行動を見すえて、さまざまなことに配慮できる姿勢を強く意識してください。
★要注意★歴史的な文献資料(古文書・翻刻版・くずし字など)を多く読む機会となります。担当の割り当てもあるので、日本史・思想史に関する専門的知識を知的基盤(史学科の2年生以上の修学水準がのぞましい)として準備しておく必要があります。

参考URL

備考

科目名： 日本政治・法制史A**担当教員： 白根 靖大**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F405

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:28 更新者：AA0326

更新日時：2023-12-18 15:38:04

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

院政期について、多角的な視座から理解を深める。具体的には、後三条天皇の登場から院政が成立し展開する政治史、武士が台頭し中央の政局に影響を与えるようになる過程などを中心に、貴族と武士あるいは中央と地方などの複数の視点から、この時期の政治・法制史を見ていく。

科目目的

時代の流れを複眼的にとらえる目を養い、社会の方向性を多角的に考える思考力を養成する。

到達目標

日本史に関する専門的知識を得るとともに、物事の諸側面を見て理解し、多角的な歴史像を描けるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 時代の概観
- 第2回 後三条天皇の登場
- 第3回 荘園整理令
- 第4回 白河院政
- 第5回 鳥羽院政
- 第6回 院政の権力構造
- 第7回 院政期の武士
- 第8回 後三年合戦
- 第9回 奥州藤原氏
- 第10回 源氏と東国武士
- 第11回 保元の乱
- 第12回 保元の新制
- 第13回 平治の乱
- 第14回 総括（学習成果の確認）

※履修者の理解度や授業の進度に応じて、計画を変更する場合がある。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業後、manabaにおいて小テストを実施する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 60% | 論述式の試験において、知識の羅列ではなく、因果関係や諸側面の関係性などを総合的に理解し、的確に論述しているかを評価する。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 40% | 毎回の授業後に実施する小テストにおいて、授業の理解度を評価する。 |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、または無断欠席が4回連続した者は、成績評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献を授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は板書を中心に進める。講義形式ではあるが「考える日本史」を目指す。

参考URL

備考

科目名： 日本政治・法制史B**担当教員： 白根 靖大**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F406

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:28 更新者：AA0326

更新日時：2024-01-05 23:25:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

武家政権が確立していく時代について、多角的な視座から理解を深める。具体的には、平氏政権や鎌倉幕府の成立と展開、後白河院政や後鳥羽院政の展開、公武政権の並立過程などをめぐって、立場の異なる諸勢力それぞれの視点から、この時期の政治・法制史を見ていく。

科目目的

時代の流れを複眼的にとらえる目を養い、社会の方向性を多角的に考える思考力を養成する。

到達目標

日本史に関する専門的知識を得るとともに、物事の諸側面を見て理解し、多角的な歴史像を描けるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 時代の概観
- 第2回 後白河院政
- 第3回 平氏政権
- 第4回 治承・寿永の乱—以仁王の乱と内乱の拡大—
- 第5回 治承・寿永の乱—諸勢力の攻防—
- 第6回 奥州合戦
- 第7回 鎌倉幕府の成立と建久の新制
- 第8回 北条氏の台頭
- 第9回 後鳥羽院政
- 第10回 承久の乱
- 第11回 北条泰時と九条道家
- 第12回 御成敗式目と寛喜の新制
- 第13回 北条時頼と後嵯峨上皇
- 第14回 総括（学習成果の確認）

※履修者の理解度や授業の進度に応じて、計画を変更する場合がある。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業後、manabaにおいて小テストを実施する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 60% | 論述式の試験において、知識の羅列ではなく、因果関係や諸側面の関係性などを総合的に理解し、的確に論述しているかを評価する。 |
| レポート | 0% | |

平常点 40% 毎回の授業後に実施する小テストにおいて、授業の理解度を評価する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、または無断欠席が4回連続した者は、成績評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献を授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は板書を中心に進める。講義形式ではあるが「考える日本史」を目指す。

参考URL

備考

科目名： 日本社会経済史A

担当教員： 落合 功

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木4

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-JH3-F407

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:29

更新者： AB3754

更新日時： 2023-12-15 00:00:00

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

日本金融史を軸にした経済史について、古代から現代にいたるまでを概説します。

科目目的

金融の歴史を古代から現在に至るまで紹介することで、通史的理解を目指す。

到達目標

「金融とは何か」について、歴史的に紹介できるようになる。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 貨幣の登場と流通
3. 信用取引、貸借契約、手形・為替
4. 中世的慣行（悔い返し、徳政令、贈答）、黄金の国、天下統一
5. 紙幣・保険・三貨制度、藩札
6. 信用取引と先物取引、貨幣経済の浸透
7. 前近代の金融制度（前半確認作業）
8. 太政官札の発行、国立銀行の設立
9. 松方財政と日本銀行
10. 恐慌と一県一行主義
11. 戦後民主化と三大改革
12. 戦後直後のハイパーインフレ、ドッジライン 高度経済成長
13. 近代の金融制度（後半確認作業）
14. 前期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 講義の内容を整理する意味で、テキストを要約し、講義の内容の理解度合いから評価する。
平常点	60% 授業の参加、受講態度、課題への対応などから評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

講義の出席者と相談して、成績方法について調整することがある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

必要に応じて、総評を行うようにする。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：落合功『新版入門日本金融史』日本経済評論社、2016年 ISBN978-4-8188-2429-4

オフィスアワー

その他特記事項

現在、対面講義で行う予定です。
基本的に時間通りに始め、早めに終わるように心がけています。遅刻や私語などへの対応は厳しいので、注意すること。
1度、2度の欠席で単位を落とすことはありません。逆に、原則として、公欠や電車の遅延なども認めません。この講義は、試験をやらず、平常点重視（レポート含む）の講義です。自己責任で出欠の判断をしてください。

参考URL

備考

科目名： 日本社会経済史B

担当教員： 落合 功

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 木4

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-JH3-F408

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:30

更新者： AB3754

更新日時： 2023-12-15 00:01:45

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

日本社会経済史（特に、近世、近現代）における諸問題について紹介する。

科目目的

近世を中心に、当時の経済社会について考える。

到達目標

近世社会、近代への展望について経済の変化から考え、説明できるようになる。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 『国益思想の源流』を読む（宝暦・天明期という時代）
3. 『国益思想の源流』を読む（池上幸豊と海中新田開発）
4. 『国益思想の源流』を読む（砂糖作りを始める）
5. 『国益思想の源流』を読む（国益思想の様相）
6. 『国益思想の源流』を読む（国益思想の時代・総括）
7. 国益思想と封建思想を考える（まとめ）
8. 『評伝 大久保利通』を読む（薩摩藩士大久保利通）
9. 『評伝 大久保利通』を読む（明治維新）
10. 『評伝 大久保利通』を読む（海外を見聞する）
11. 『評伝 大久保利通』を読む（北京での交渉）
12. 『評伝 大久保利通』を読む（政治体制から経済へ）
13. 大久保利通と明治維新について考える（まとめ）
14. 後期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% テキストを読んで講義の内容を整理する意味で、テキストを要約し、理解度を評価してもらう。（2冊いずれも）
平常点	50% 授業の参加、受講態度、課題への対応などで評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：落合功『国益思想の源流』（同成社、2016年）、ISBN978-4-88621-745-5
落合功『評伝 大久保利通』（日本経済評論社、2017年）ISBN978-4-8188-2011-1

オフィスアワー

その他特記事項

対面授業で実施する予定です。
基本的に時間通りに始め、早めに終わるように心がけています。遅刻や私語などへの対応は厳しいので、注意すること。
1度、2度の欠席で単位を落とすことはありません。逆に、原則として、公欠や電車の遅延なども認めません。この講義は、試験をやらず、平常点重視（レポート含む）の講義です。自己責任で出欠の判断をしてください。

参考URL

備考

科目名： 対外関係史A

担当教員： 米谷 均

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-JH3-F411

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:31 更新者： AC8778

更新日時： 2024-01-03 10:48:12

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日韓関係は「関係改善が必要」と言われつつも、かつてのように「近くて遠い国」になりつつある。その一因は、不可逆的に解消したはずの両国の「歴史問題」が、なぜか常態的に蒸し返されて続けたからである。かかる状況下にて、我々はどういうにして隣国に接すればよいのであろうか？

本授業は、対馬と沖縄（琉球）の対外交渉に焦点を絞り、東アジア・東南アジア海域の交流史を検討する。対馬と沖縄は、日本本土から見れば「辺境」であるが、同時に日朝関係・日中関係の「窓口」でもあった。両者の「立ち位置」を考察することを通じて、前近代東アジア外交の特質についても検討する。また授業においては、画像や動画を活用し、可能であれば、このジャンルに関連した特集番組などを披露したい。

科目目的

東シナ海域・南シナ海域における交流史を、外交・戦争・貿易・掠奪・文化交流などの諸側面から、多角的に検討する。具体的には、対馬と沖縄（琉球）を軸に、前近代における日本とアジア諸地域との相互交流史を理解する。

到達目標

講義内容を十分に理解した上で、様々な資料に対する分析能力の獲得し、課題に対する調査能力を習得することを目標にする。

授業計画と内容

- | | | |
|------|-----|--|
| 第1回 | I | 授業の概説（対馬と琉球の歴史概説） |
| 第2回 | II | 『対馬宗氏と応永の外寇』 1 宗氏の対朝鮮通交／応永の乱と日本社会への影響 |
| 第3回 | III | 『高麗・朝鮮仏教文物の日本渡来』 1 日本伝来の経緯 |
| 第4回 | | 2 仏教文物に対する日朝両国の姿勢の相違 |
| 第5回 | | 3 高麗・朝鮮仏画の評価／文物とナショナリズム |
| 第6回 | IV | 『江戸時代における日朝中の物流構造』 1 近世日本の「鎖国」政策と銀の輸出 |
| 第7回 | | 2 銀と生糸と朝鮮人参 |
| 第8回 | V | 『「南島」「琉球」世界のイメージ』 1 古代日本と「南島」／中国の「流求」像 |
| 第9回 | | 2 中世日本の境界観／「流求」から「琉球」へ |
| 第10回 | VI | 『琉球王国の対外貿易と外国人社会』 1 「万国の架け橋」としての琉球 |
| 第11回 | | 2 琉球の華人社会／琉球の日本人社会 |
| 第12回 | VII | 『琉球と日本との関係史』 1 室町幕府と琉球との通交／細川氏の通交関与 |
| 第13回 | | 2 大内氏の琉球通交／島津氏の琉球通交 |
| 第14回 | | 教場試験とまとめ |

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前に前の回に配布したレジメに必ず目を通した上で聴講すること。また、授業内容の復習を必ず行い、課題が提示された場合はそれに取り組むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 80% 最終回における教場試験の評価（素点）。

レポート	10%	自由提出の感想レポート。
平常点	10%	授業への参加度。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献

- : 大石直正・高良倉吉・高橋公明編『周縁から見た中世日本』(講談社。日本の歴史14。2001年)
- : 豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館。日本の時代史18。2003年)
- : 佐伯弘次『対馬と海峡の中世史』(山川出版社。歴史リブレット77。2008年)
- : 関周一『対馬と倭寇』(高志書院。高志書院選書8。2012年)
- : 橋本雄『偽りの外交使節一室町時代の日朝関係一』(吉川弘文館。2012年)
- : 荒木和憲『対馬宗氏の中世史』(吉川弘文館。2017年)
- : 黒嶋敏・屋良健一郎編『琉球史料学の船出』(勉誠出版。2017年)
- : 池内敏『絶海の碩学一近世日朝外交史研究一』(名古屋大学出版会。2017年)
- : 松方冬子編『国書がむすぶ外交』(東京大学出版会。2019年)
- : 真栄平房昭『琉球海域史論』(榕樹書林。2020年)
- : 酒井雅代『近世日朝関係と対馬藩』(吉川弘文館。2021年)
- : 程永超『華夷変態の東アジア』(清文堂。2021年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 対外関係史B

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水4

担当教員： 米谷 均

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F412

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:31 更新者：AC8778

更新日時：2024-01-03 10:48:58

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在、日中関係はコロナの影響もあって冷え冷えとしている。また中国政府の「一帯一路」構想に伴う海洋進出や尖閣諸島問題など、予断を許さぬ事態が発生する可能性が、常に存在している。かかる問題に直面した時、我々はどうのように対応すべきだろうか？

本授業は、「近くて遠い」日中関係史を軸に、書籍や文物や情報の交流と、それを担った海商や僧侶などの動きを考察し、前近代における東アジア外交の特質について検討する。それと比較対照するために、東アジア世界を大航海時代のキリスト教世界から俯瞰してみる。そして異文化の衝突という視点からみた相互不理解の様相を考察する。また授業においては、画像や動画URLを活用し、可能であれば、このジャンルに関連した特集番組や映画などを紹介したい。

科目目的

東シナ海域・南シナ海域における交流史を、外交・戦争・貿易・掠奪・文化交流などの諸側面から、多角的に検討する。具体的には、対馬と沖縄（琉球）を軸に、前近代における日本とアジア諸地域との相互交流史を理解する。

到達目標

講義内容を十分に理解した上で、様々な資料に対する分析能力の獲得し、課題に対する調査能力を習得すること。

授業計画と内容

第1回	I 授業の概説	
第2回	II 『東アジア世界におけるブック・ロード』	1 「本の道」と日中関係/佚存書の還流
第3回		2 近世から明治以降における書籍の流れ
第4回	III 『中国渡海の日本人僧の「身分証明書」』	1 遣唐使の時代/入宋「巡礼僧」の時代
第5回		2 遊学僧の時代/明の海禁と遊学の終焉
第6回	IV 『東シナ海域の季節風と遣明船』	1 遣明船の航路/航海技術/航海信仰
第7回		2 遣明船における客死/日中船舶の構造相違
第8回	V 『遣明船と文化交流』	1 漢詩文の応酬と肖像賛・行状記など
第9回		2 送別詩をめぐる虚々実々（偽造行為）
第10回	V 『キリスト教世界から見た東アジア』	1 カトリック教国の「世界分割」構想
第11回		2 イエズス会とフランシスコ会の抗争
第12回	VI 『秀吉の伴天連追放令とキリシタン教界』	1 豊臣秀吉とバテレンたちの相互不理解
第13回		2 バテレン追放令はなぜ発令されたのか
第14回	教場試験とまとめ	

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前に前の回に配布したレジメに必ず目を通した上で聴講すること。また、授業内容の復習を必ず行い、課題が提示された場合はそれに取り組むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 最終回の教場試験の評価（素点）。
レポート	10% 自由提出の感想レポート
平常点	10% 授業への参加度。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献

- ：高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』（岩波書店。1977年）
- ：五野井隆史『日本キリスト教史』（吉川弘文館。1990年）
- ：荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係』全7巻（吉川弘文館。2010年～）
- ：榎本 渉『僧侶と海商たちの東シナ海』（講談社〔選書メチエ〕。2010年）
- ：久芳 崇『東アジアの兵器革命』（吉川弘文館。2010年）
- ：橋本 雄『"日本国王"と勘合貿易』（NHK出版。2013年）
- ：村井章介編『日明関係史研究入門』（勉誠出版。2015年）
- ：ルシオ・デ・ソウザ 岡美穂子『大航海時代の日本人奴隷』（中央公論新社。2017年）
- ：松方冬子編『国書がむすぶ外交』（東京大学出版会。2019年）
- ：川村信三編『キリシタン歴史探求の現在と未来』（教文館。2021年）
- ：程 永超『華夷変態の東アジア』（清文堂。2021年）
- ：小俣ラポー日登美『殉教の日本』（名古屋大学出版会。2023年）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 明治維新史A

担当教員： 宮間 純一

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-JH3-F413

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:32

更新者： AA1830

更新日時： 2023-11-12 00:36:22

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

明治維新の通史について、政治・外交・社会・文化史上の主要なテーマを取り上げながら講義する。

科目目的

近代日本の発端として語られてきた明治維新の通史を学ぶことで、その全体像を受講生なりに再構築するとともに、明治維新が日本社会にもたらした功罪を考える力を養う。

到達目標

明治維新の通史を「暗記する」のではなく、講義で示された事柄を咀嚼し、現在との関わりのなかで独自の歴史意識を持てるようになる。

授業計画と内容

- 1 明治維新と現在
- 2 明治維新史研究の動向
- 3 世界史の中の明治維新
- 4 幕末政治史の諸課題（ペリー来航前後）
- 5 幕末政治史の諸課題（開国以降）
- 6 幕末政治史の諸課題（尊攘運動の展開）
- 7 幕末政治史の諸課題（王政復古）
- 8 幕末政治史の諸課題（戊辰戦争）
- 9 明治政府の諸改革（太政官制の発足）
- 10 明治政府の諸改革（廃藩置県）
- 11 明治政府の諸改革（身分制度の解体）
- 12 明治政府の諸改革（文明開化）
- 13 明治政府の諸改革（明治初期の外交）
- 14 明治政府の諸改革（西南戦争まで）

※一部の回について、実施方法をオンデマンドに変更することがある。
その場合は、manabaにて受講生に連絡する。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

課題（小テスト）は授業時間内で完結できる問題を出すのが、切りまでに提出すれば授業時間外でも可とする。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%

平常点 100% 毎回講義の内容に関連した小テスト（200字から800字）を課す。13回分を各7点で採点し、最終回の14回のみ9点配点とする。なお、合計点にかかわらず小テストの提出回数が10回に満たない者は不合格とする。

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストの採点基準は以下の通り。(第14回は自己の見解の説得力に応じて2点分加点する)

7点: 講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を説得的・理論的に展開できている。

6点: 講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を述べる事ができている。

5点: 講義の内容をまとめているが、自己の見解が不十分である。

4点: 講義の内容をまとめているが、自己の見解がほとんど見られない。

3点: 講義の内容をまとめているが、自己の見解がまったくない。

2点: 講義の内容の一部がまとめられている。

1点: 講義の内容をまとめているが、不正確な箇所が多い。

0点: 講義の内容と関係のない記述しかない。

※剽窃、他人の回答のコピペ等の不正を発見した場合は、理由にかかわらず不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト)
とくに定めない

(参考文献)
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12 (有志舎、2010年～2018年)
宮地正人『幕末維新変革史』上・下 (岩波書店、2012年)
井上清『明治維新』(日本の歴史20、中央公論新社、2006年)
松尾正人『維新政権』(吉川弘文館、1995年)
井上勲『王政復古』(中公新書、1991年)

オフィスアワー

その他特記事項

テキスト・レジュメは必要に応じて配布する。
講義に関する質問はメールで受け付ける。

参考URL

備考

科目名： 明治維新史B**担当教員： 宮間 純一**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水5

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F414

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:32 更新者：AA1830

更新日時：2023-11-12 00:37:50

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

幕末から明治期に中央・地方で起きた具体的な出来事について史料を提示しながら解説する。

科目目的

近代日本の発端として語られてきた明治維新の各論（身分、ジェンダー、天皇など）を学ぶことで、その全体像を受講生なりに再構築するとともに、明治維新が日本社会にもたらした功罪を考える力を養う。

到達目標

明治維新に関する各テーマを「暗記する」のではなく、講義で示された事柄を咀嚼し、現在との関わりのなかで独自の歴史意識を持てるようになる。

授業計画と内容

- 1 天皇と明治維新
- 2 公家の明治維新
- 3 幕臣の明治維新
- 4 豪農の明治維新
- 5 多摩の明治維新
- 6 島の明治維新
- 7 女性の明治維新
- 8 被差別民の明治維新
- 9 大名の明治維新
- 10 藩士の明治維新
- 11 下級武士の明治維新
- 12 宗教者の明治維新
- 13 明治維新と「功臣」
- 14 明治維新史研究の総括・まとめ

※一部の回について、実施方法をオンデマンドに変更することがある。
その場合は、manabaにて受講生に連絡する。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

課題（小テスト）は授業時間内で完結できる問題を出すのが、切りまでに提出すれば授業時間外でも可とする。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%

平常点 100% 毎回講義の内容に関連した小テスト（200字から800字）を課す。13回分を各7点で採点し、最終回の14回のみ9点配点とする。なお、合計点にかかわらず小テストの提出回数が10回に満たない者は不合格とする。

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストの採点基準は以下の通り。(第14回は自己の見解の説得力に応じて2点分加点する)
7点：講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を説得的・理論的に展開できている。
6点：講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を述べる事ができている。
5点：講義の内容をまとめているが、自己の見解が不十分である。
4点：講義の内容をまとめているが、自己の見解がほとんど見られない。
3点：講義の内容をまとめているが、自己の見解がまったくない。
2点：講義の内容の一部がまとめられている。
1点：講義の内容をまとめているが、不正確な箇所が多い。
0点：講義の内容と関係のない記述しかない。
※剽窃、他人の回答のコピペ等の不正を発見した場合は、理由にかかわらず不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に使用せず、レジュメを配付する。
参考文献は、適宜講義中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

講義の進行にあわせて、適宜、明治維新史関係の文献・参考書を読むこと。

参考URL

備考

科目名： 記録史料学A**担当教員： 清水 善仁**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-PL3-F415

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:32

更新者：gakubadmin

更新日時：2024-01-16 12:37:55

履修条件・関連科目等

必須ではないが、後期に「記録史料学B」をあわせて履修することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、公文書館に関する二つのテーマに焦点を当てます。第一は公文書館という存在それ自体について。公文書館というものがどのようにして現代までに形作られ、かつ社会のなかで位置づけられてきたのかを、理念・歴史・専門職員それぞれの視点から考えます。第二は公文書館が担う機能について。公文書館でおこなわれている各種の業務（記録の移管・収集・整理・公開・普及啓発・保存修復等）を具体的な事例や演習をまじえて考察し、その意義と課題について明らかにします。

科目目的

記録史料学は現在ではアーカイブズ学とも呼ばれています。アーカイブズという言葉は、学問的には将来にわたって保存すべき記録のことを指し、かつそうした記録を適切に管理・公開する公文書館などの施設を指す言葉として定義されています。したがって、記録史料学とは過去から現代にいたる記録について、あるいは公文書館やその機能について研究する学問です。とはいえ、記録の何について研究するのかこの定義だけでは分からないし、公文書館といわれても日本においてははまだ認知度が低いこの施設についてどのような研究が成り立つのかと、疑問に思う人もいるかもしれません。この講義では、こうした疑問に答えることを出発点として、記録史料学の基礎を学ぶことで、その専門的学識を身に付けることを目的とします。事前の知識はさほど必要としませんが、取り扱うテーマは幅広いです。したがって、講義では映像や演習等をまじえつつ、記録史料学の現状や課題について履修者とともに考えていきます。また、日本史学はもとより歴史学を専攻する学生にとって、卒業論文の執筆に向けた自身の研究のなかでは、記録（史料）に基づく事実の解明や分析・解釈が求められます。その際、記録に書かれた内容に注目することはもちろんのことですが、それだけではなく、記録が作成・管理されてきた背景や文脈を探ることも大切なことです。あるいは、記録の調査研究のために公文書館等の施設を訪問することもあるでしょう。このような点で、歴史学と記録史料学は密接な関係を有するものですから、この講義を通して、履修者それぞれの研究に資する情報や素材を提供していきたいと思っています。

到達目標

本講義で学んだ公文書館や記録史料に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の歴史研究につなげて考察することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス：記録史料学への招待
- 第2回 記録史料学とは何か
- 第3回 公文書館制度の歴史
- 第4回 公文書館制度の現在
- 第5回 公文書館専門職員（アーキビスト）の役割
- 第6回 公文書の移管と評価選別
- 第7回 地域史料の調査と収集
- 第8回 記録史料の整理と目録作成（講義）
- 第9回 記録史料の整理と目録作成（演習）
- 第10回 記録史料の公開をめぐる諸問題
- 第11回 公文書館の普及啓発活動
- 第12回 多様な公文書館の世界を知る
- 第13回 記録史料の保存と修復
- 第14回 総括・まとめ：公文書館の将来像

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習は不要ですが、各回の講義で学んだ内容について、参考文献にあたるなどして復習することは必要です。その作業を通して、記録史料学やアーカイブズへの理解をさらに深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70%
レポート	0%
平常点	30%
その他	0%

講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。

リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

これまでに京都大学大学図書館や神奈川県立公文書館等の公文書館に勤務し、公文書や古文書・私文書の収集・整理・保存・公開等のアーカイブズ実務に携わった経験を有しています。

実務経験に関連する授業内容

記録史料学の理論や方法が、公文書館の現場においてどのように受容され、また実践されているかを、これまでの経験をふまえて講述したいと思います。

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回資料を配布してそれをもとに講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 記録史料学B**担当教員： 清水 善仁**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-PL3-F416

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:32

更新者：gakubadmin

更新日時：2024-01-16 12:39:02

履修条件・関連科目等

必須ではないが、前期に「記録史料学A」を履修しておくことが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、「記録史料学A」で学んだ内容を受けて、公文書館等に収蔵される記録史料の諸相に焦点を当てます。古代から現代にいたる社会のなかで、記録がどのように作成・運用・管理・保存されてきたのかを、それぞれの時代の事例を取り上げて講述するとともに、それに関する当時の記録史料の講読をおこなうことで、よりその理解を深めます。なお、担当教員の専門の関係上、近世および近現代の記録史料に関する講義が中心となります。

科目目的

記録史料学は現在ではアーカイブズ学とも呼ばれています。アーカイブズという言葉は、学問的には将来にわたって保存すべき記録のことを指し、かつそうした記録を適切に管理・公開する公文書館などの施設を指す言葉として定義されています。したがって、記録史料学とは過去から現代にいたる記録について、あるいは公文書館やその機能について研究する学問です。とはいえ、記録の何について研究するのかこの定義だけでは分からないし、公文書館といわれても日本においてははまだ認知度が低いこの施設についてどのような研究が成り立つのかと、疑問に思う人もいるかもしれません。この講義では、こうした疑問に答えることを出発点として、記録史料学の基礎を学ぶことで、その専門的学識を身に付けることを目的とします。事前の知識はさほど必要としませんが、取り扱うテーマは幅広いです。したがって、講義では映像や演習等をまじえつつ、記録史料学の現状や課題について履修者とともに考えていきます。また、日本史学はもとより歴史学を専攻する学生にとっても、卒業論文の執筆に向けた自身の研究のなかでは、記録(史料)に基づく事実の解明や分析・解釈が求められます。その際、記録に書かれた内容に注目することはもちろんのことですが、それだけではなく、記録が作成・管理されてきた背景や文脈を探ることも大切なことです。あるいは、記録の調査研究のために公文書館等の施設を訪問することもあるでしょう。このような点で、歴史学と記録史料学は密接な関係を有するものですから、この講義を通して、履修者それぞれの研究に資する情報や素材を提供していきたいと思っています。

到達目標

本講義で学んだ公文書館や記録史料に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の歴史研究につなげて考察することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 歴史学と記録史料学
- 第3回 古代・中世の組織と記録史料
- 第4回 近世の組織と記録史料①：総論／幕府・藩
- 第5回 近世の組織と記録史料②：村・都市
- 第6回 近世の組織と記録史料③：史料講読
- 第7回 近現代の組織と記録史料①：総論／公文書
- 第8回 近現代の組織と記録史料②：私文書
- 第9回 近現代の組織と記録史料③：史料講読
- 第10回 戦争と記録史料／公文書館
- 第11回 災害と記録史料／公文書館
- 第12回 大学と記録史料／公文書館
- 第13回 記録史料と公文書館をめぐる諸問題
- 第14回 総括・まとめ：記録史料学のこれから

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習は不要ですが、各回の講義で学んだ内容について、参考文献にあたるなどして復習することは必要です。その作業を通して、記録史料学やアーカイブズへの理解をさらに深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

これまでに京都大学大学図書館や神奈川県立公文書館等の公文書館に勤務し、公文書や古文書・私文書の収集・整理・保存・公開等のアーカイブズ実務に携わった経験を有しています。

実務経験に関連する授業内容

記録史料学の理論や方法が、公文書館の現場においてどのように受容され、また実践されているかを、これまでの経験をふまえて講述したいと思います。

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回資料を配布してそれをもとに講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本宗教史A**担当教員： 石津 裕之**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F417

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:32 更新者：AD0986

更新日時：2023-12-21 12:46:33

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世における仏教や神道などの宗教について講義を行う。授業形式は面接授業である。宗教は多様な視点から考察することができるが、この授業では、僧侶や社家といった宗教者のあり様について解説を行う。具体的には、江戸幕府による宗教者に対する統制、宗教者の身分、宗教者と社会の関係などを取り上げる。また、門跡・修験・陰陽師といった、一般にはあまり馴染みのない宗教者についても紹介する。

科目目的

近世といえば、士・農・工・商のイメージが強いが、実は、僧侶や社家といった宗教者も社会の重要な構成員であり、他の身分の者には代替できない役割を国家・社会の中で果たしていた。その事実を踏まえるとき、宗教者のあり様を理解することは、近世の時代像を理解することに繋がるといえるだろう。この授業では、近年の研究成果にも目配りしながら、近世の宗教者がどのような制度の下で、いかなる願望・葛藤を抱えながら、民衆とともに生きていたかを紹介する。この授業での学びを通じて、近世の宗教者のあり様を理解するとともに、それを手がかりとして、近世の時代像についても理解を深めてもらいたい。

到達目標

- ・近世の宗教者のあり様について、基礎的な知識を習得し、自分の言葉で他者に説明できるようになる。
- ・近世の宗教者のあり様から見えてくる、江戸時代の国家・社会の姿について、自分の言葉で他者に説明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中世の宗教構造 ―近世の前提として―
- 第3回 江戸幕府による寺院・僧侶統制
- 第4回 僧侶の身分
- 第5回 寺院・僧侶と社会
- 第6回 門跡のあり様① ―幕府の前で―
- 第7回 門跡のあり様② ―朝廷の中で―
- 第8回 江戸幕府による神社・社家統制
- 第9回 社家の身分
- 第10回 神社・社家と社会
- 第11回 多様な宗教者のあり様① ―修験―
- 第12回 多様な宗教者のあり様② ―陰陽師―
- 第13回 寺院と神社の関係 ―近世の神仏習合―
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に紹介する参考文献を読んで関連事項について理解を深めるとともに、身近にある宗教に関する現象（寺社参詣や冠婚葬祭など）について、歴史的に考える習慣を身につけること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	指定したテーマについて、講義内容を踏まえる形で、正確かつ具体的に叙述できるかを評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業後にmanabaを通じて提出する感想で評価する。授業を受けて、どのようなことを考えたのかが明示できているかを重視する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業を受けて疑問に思ったことや質問がある場合は、授業後に毎回提出してもらう感想の中で言及してもらい、次回授業の冒頭で時間の許す限り、応答するようにする。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
 いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは無し。毎回の授業でレジユメを配布する。参考文献は授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

・第1回の授業では、授業の進め方や成績評価などについての詳細を説明するので、履修希望者は必ず出席すること。
 ・連絡事項が生じた場合、manabaのコースニュースに掲示するので、こまめにチェックすること。

参考URL

備考

科目名： 日本宗教史B**担当教員： 繁田 真爾**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F418

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:33 更新者：AD1431

更新日時：2024-01-06 15:06:06

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「近現代日本宗教史」をテーマとする授業。講義形式とする。
本授業では、幕末維新时期から20世紀までの日本宗教史を概観する。宗教と国家・社会の関係、そして時代ごとの人びとの信仰のあり方を検討することで、日本の「近代」の意味や歴史的な位置づけについて考えてみたい。

科目目的

卒業論文の作成につながるように、広く深い視野で歴史に向き合う研究姿勢を身につける。政治史や経済史とは異なる思想・宗教史の視座から、日本近現代史を批判的に考察することができる問題意識の獲得をめざす。

到達目標

受講生が講義の内容を理解したうえで、それぞれの問題関心にもとづいて問いを立て、文献にあたり、史料を検討して考察することで、自身の見解を持つことができるようになる。

授業計画と内容

1. 近現代日本宗教史を学ぶ：視座と論点
2. 幕末・維新时期の宗教：新政府の宗教政策
3. 維新时期から明治中期の宗教（1）神道・仏教
4. 維新时期から明治中期の宗教（2）キリスト教・民衆宗教
5. 明治後期の宗教（1）立憲体制の確立と宗教
6. 明治後期の宗教（2）戦争と社会問題
7. 大正期の宗教（1）「宗教的なもの」の広がり
8. 大正期の宗教（2）デモクラシー状況と宗教
9. 昭和前期の宗教（1）総力戦体制と宗教
10. 昭和前期の宗教（2）アジア太平洋戦争と宗教
11. 戦後の宗教（1）占領期
12. 戦後の宗教（2）戦後政治と宗教
13. 現代日本と宗教
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義内容で疑問や関心を持った点について、参考文献を参照しながら本を読み、学びを深めること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 授業内容をよく理解してそれを適切に論述・説明することができるか評価する。
レポート	0%
平常点	50% 授業の出席状況および提出されたレビューシートの内容により評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【参考文献】島菌進・末木文美士・大谷栄一・西村明編『近代日本宗教史』（全6巻、春秋社、2020～2021年）。
その他の参考文献は、授業中にその都度紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：文化財学A**担当教員：須田 英一**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：火4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-HE3-F419

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:33 更新者：AC9669

更新日時：2024-01-08 13:26:29

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

埋蔵文化財（遺跡）保護行政のシステムを、考古学研究との関わりにも触れながら学ぶ。また、埋蔵文化財（遺跡）保護の今後の展開と役割について考えてみたい。

科目目的

混沌とした現代社会の中で、遺跡(埋蔵文化財)は地域社会にうるおいを与えてくれる文化遺産の一つである。埋蔵文化財は、考古学だけではなく、地域教材として学校教育や生涯学習などの教育分野、景観の一つとしてまちづくりなどの都市計画分野や、地域アイデンティティーとしての地域社会との深いつながりなど、現代社会との関わりも深く、文化財行政は文化政策の中で大きな支脈を形成している。

遺跡を保護する行政研究を埋蔵文化財行政学と位置付け、この科目での学習を通じて、行政の基本的枠組みについて理解を深める。さらに考古学研究と埋蔵文化財との関わりにも言及するので、考古学と現代社会との関わりに対する認識を得ることを目的とする。

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」・「複眼的思考」を習得することを目的としている。

到達目標

この科目では、埋蔵文化財行政のシステムとプロセスを学ぶことを通じて、行政職員としての施策の進め方を把握し、埋蔵文化財を文化財の一つとして幅広く考えられるようになると共に、教育・都市計画・景観・まちづくりなど、現代社会との関わりの中で捉えられるようになることを到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、文化財の体系と埋蔵文化財
- 第2回 埋蔵文化財と埋蔵文化財行政学 (1) 埋蔵文化財とは
- 第3回 埋蔵文化財と埋蔵文化財行政学 (2) 埋蔵文化財専門職員に求められる能力
- 第4回 埋蔵文化財に関する制度・行政のシステム (1) 埋蔵文化財行政史
- 第5回 埋蔵文化財に関する制度・行政のシステム (2) 文化財保護法
- 第6回 埋蔵文化財の周知・予防 遺跡地区、埋蔵文化財包蔵地の把握・周知
- 第7回 埋蔵文化財の調査 緊急調査と記録保存
- 第8回 埋蔵文化財の発掘調査報告書 報告書の在り方と問題点
- 第9回 埋蔵文化財の発掘調査担当者の資格制度 資格制度導入の動向と背景
- 第10回 埋蔵文化財の発掘調査と民間調査機関 民間調査機関導入の効果と課題
- 第11回 埋蔵文化財の保存 遺跡の保存・整備
- 第12回 埋蔵文化財の活用 遺跡の活用、埋蔵文化財の普及
- 第13回 文化政策と埋蔵文化財 近年の文化政策の展開と埋蔵文化財を取り巻く環境
- 第14回 総括・まとめ 埋蔵文化財行政の今後の展開と役割

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プライベートな時間に、近隣の埋蔵文化財センター・博物館などにも足を運び、埋蔵文化財の活用事業にも参加して欲しい。また、文化財や史跡などに関する新聞・雑誌記事やテレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めて欲しい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 定期試験は実施しない。中間・学期末の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	40% 授業の受講態度の状況と、毎回のリアクションペーパーの内容を基準とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

1988年9月～1991年12月、慶應義塾藤沢校地理蔵文化財調査室勤務、発掘担当者として発掘調査、整理作業に従事
1994年4月～2010年3月、神奈川県三浦市教育委員会社会教育課文化財保護係勤務、文化財担当者として発掘調査・整理作業、資料館運営、公開・普及事業、庶務事務、その他に従事
2011年10月～2013年3月、慶應義塾大学矢上地区文化財調査室勤務、担当者として整理作業に従事

実務経験に関連する授業内容

大学の調査機関、自治体での実務経験を通じて、資料館運営に関する基本的な知識と運用、文化財行政に関する運営と課題などについて講義する。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布する。下記以外の参考文献については適宜紹介する。
稲田孝司『日本とフランスの遺跡保護』岩波書店、2014年 ISBN978-4-00-025974-3
須田英一『遺跡保護行政とその担い手』同成社、2014年 ISBN978-4-88621-676-2
土屋正臣『市民参加型調査が文化を変える』美学出版、2017年 ISBN978-4-902078-46-6
和田勝彦『遺跡保護の制度と行政』堂成社、2015年 ISBN978-4-88621-709-7

オフィスアワー

その他特記事項

本講義は昨年度の「考古学特講A」の内容を引き継いで開講しているため、一部講義内容に重複があることをご理解願いたい。
考古学など歴史学を専攻して学芸員課程を履修している学生にとって、専攻と社会との関わりを考える絶好の機会になると思う。また、地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。講義では埋蔵文化財に関わる最新のニュースなどにも触れるので、必ずしもシラバス通りの進行にならない場合がある。

参考URL

備考

科目名：文化財学B**担当教員：長佐古 真也**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：火6

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-HE3-F420

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:34 更新者：AC8304

更新日時：2024-01-09 17:52:17

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

史料をはじめとする様々な資料について、これを文化財(遺産)として後世に伝えること、すなわち“保存”することの意味について考えることから始めます。次いで、この保存を妨げる“劣化”について、保存・修復の専門家でないでと触れることのない資料素材の性質や周囲の環境の観点から実例を交えて紐解くことで、基本的な対処法への理解を深めます。

科目目的

資料(史料)に関わる当事者の責務として、眼前の資料を如何に健全な状態を保ちながら後世に伝えるかを常に意識する姿勢を身につけることが目的です。

到達目標

文化財の恒久保存を踏まえた正しい取り扱いが自然に行えるような意識の醸成を目標とします。そのためには、基礎的知識と対処の基本に対する理解はもちろん、これらを単なるマニュアルとして暗記するのではなく、置かれた状況・環境や立場に応じて柔軟に対処し、自ら問題解決の糸口を導き出すことを意識しながら履修を進めてください。

授業計画と内容

- 第1週 資料(史料)を後世に伝えることの意味を考える
- 第2週 資料劣化の内的要因と対処の基本/有機物素材1 (植物質)
- 第3週 資料劣化の内的要因と対処の基本/有機物素材2 (樹脂・動物質)
- 第4週 資料劣化の内的要因と対処の基本/無機物素材1 (金属種)
- 第5週 資料劣化の内的要因と対処の基本/無機物素材2 (金属の腐蝕)
- 第6週 資料劣化の内的要因と対処の基本/無機物素材3 (金属以外)
- 第7週 資料劣化の外的要因と対処の基本/温湿度
- 第8週 資料劣化の外的要因と対処の基本/空気質とその制御
- 第9週 資料劣化の外的要因と対処の基本/光と照明
- 第10週 資料劣化の外的要因と対処の基本/生物劣化とIPM
- 第11週 資料劣化の外的要因と対処の基本/災害等とリスクマネジメント
- 第12週 劣化資料修復の考え方
- 第13週 資料保存の多様性と将来
- 第14週 総括

※ 内容によっては週を跨ぐ場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

本講義は独自のレジュメを用いますので、特に受講後の復習と自らの興味や視点に基づく発展学習に重点を置いて理解を深めてください。講義に対する自らの理解度を自覚するためにも、受講後のリアクションレポートは重要です。これを含め、提出を求められた課題は遺漏・遅滞なく提出してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 講義で得た知識や思考法を駆使し、問われた状況に対してどのように対処するかという設問への対応を中心に評価します。

レポート	0%
平常点	50% 講義後のリアクションレポートの提出状況および内容の充実度について評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者はE判定とします。（配慮すべき特段の事情がある場合は除く／要相談）

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

受講後に提出していただくリアクションレポートについて、講師が共有すべきと判断したものを取り上げて講評します。当初は授業時間内での解説を予定していますが、状況によってはmanabaなどを利用する場合があります。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

東京都埋蔵文化財センターで発掘調査の実務経験に加え、出土品の安定化処理、収蔵資料管理および理化学分析を平成18年から担当。

実務経験に関連する授業内容

埋蔵文化財に限らず、講師が実際に経験した事例等を盛り込んで講義します。

テキスト・参考文献等

内容が多岐にわたるため、各回の内容に即したレジュメを配布いたしますので、特定のテキストは使用いたしません。参考文献につきましては、レジュメ等で随時ご案内いたします。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 考古学特講A**担当教員： 須田 英一**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-AR3-F425

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:36 更新者：AC9669

更新日時：2024-01-08 13:22:57

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

指定史跡を中心に神奈川県内の代表的な遺跡を取り上げ、その遺跡の発見や発掘調査に関わった地域研究者達にスポットを当てながら、日本考古学の研究の歩みと成果について理解を深める。また、地方自治体での実務経験、大学調査機関での調査・研究経験を通じた遺跡の調査現場での経験を伝えると共に、地域社会における遺跡の保存と活用についても考えてみたい。

科目目的

神奈川県内を中心として活動した地域研究者達の足跡をたどり、遺跡の調査・研究から構築された考古学の成果を通じて、神奈川県内の遺跡と人物との関わりについて幅広く習得する。考古学的なものの考え方・捉え方も身に付ける。また、地域研究にかけた人物達の想いが、考古学の調査・研究成果とその保護にどのようにつながっていったのかについても知ってもらいたい。

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」・「複眼的思考」を習得することを目的としている。

到達目標

この科目では、地域研究者達の足跡から、遺跡と人物との関わりについて幅広く考えられるようになると共に、各事例から地域研究者達の想いが現代にも継承されていることの理解を進めることを到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス 考古学史の考え方
- 第2回 旧石器時代の遺跡 (1) 相模原市 田名向原遺跡 -住居状遺構と遺跡の保存-
- 第3回 縄文時代の遺跡 (1) 相模原市 勝坂遺跡 -大山柏と勝坂式土器-
- 第4回 縄文時代の遺跡 (2) 三浦市 諸磯遺跡 -榊原政職と諸磯式土器-
- 第6回 赤星直忠の人と学問 赤星直忠の人物像と研究内容
- 第7回 弥生時代の遺跡 (1) 三浦市 赤坂遺跡 -赤星直忠・岡本勇と遺跡の保存-
- 第8回 弥生時代の遺跡 (2) 三浦半島 海蝕洞穴遺跡群 -赤星直忠と「穴の考古学」-
- 第9回 古墳時代の遺跡 葉山町 長柄桜山古墳 -アマチュア考古学者と遺跡の発見-
- 第10回 石野瑛・岡本勇の人と学問 石野瑛・岡本勇の人物像と研究内容
- 第11回 奈良時代の遺跡 茅ヶ崎市 七堂伽藍跡 (下寺尾官衙遺跡群) -岡本勇と寺院址の発見-
- 第12回 近現代の遺跡 (1) 三浦半島 砲台遺跡群 -赤星直忠と『三浦半島城郭史』-
- 第13回 近現代の遺跡 (2) 三浦市 ヤキバの塚遺跡 -漁村の考古学と民俗学をめぐって-
- 第14回 総括・まとめ 遺跡の調査・研究の成果、遺跡の発掘調査に関わった人物達、遺跡の保存と活用

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プライベートな時間に、近隣の埋蔵文化財センター・博物館などに足を運び、埋蔵文化財の活用事業にも参加してほしい。また、文化財や史跡などに関する新聞・雑誌記事や、テレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	60% 定期試験は実施しない。中間・学期末の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	40% 授業の受講態度の状況と、毎回のリアクションペーパーの内容を基準とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件: 両課題レポートを提出していない受講者は、F判定とするので、十分に注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

- ・1988年9月～1991年12月、慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室勤務、発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事
- ・1994年4月～2010年3月、神奈川県三浦市教育委員会社会教育課文化財保護係勤務、文化財担当者として埋蔵文化財発掘調査・整理作業、資料館運営、公開・普及活動、庶務事務に従事
- ・2011年10月～2013年3月、慶應義塾大学矢上地区文化財調査室勤務、文化財担当者として整理作業に従事

実務経験に関連する授業内容

大学の調査研究機関、地方自治体の文化財行政の実務経験を通じ、埋蔵文化財行政に関する基本的な知識と運用、埋蔵文化財の保存と活用、公開・普及のあり方について講義する。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布する。下記以外の参考文献については適宜紹介する。
須田英一『遺跡保護行政とその担い手』同成社、2014年 ISBN978-4-88621-676-2

オフィスアワー

その他特記事項

講義では神奈川県内の遺跡に関わる最新のニュースなどにも触れるので、必ずしもシラバス通りの進行にならない場合がある。

参考URL

備考

科目名：考古学特講B**担当教員：黒尾 和久**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-AR3-F426

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:36 更新者：AC7952

更新日時：2024-01-05 11:10:32

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

考古資料の性格、「遺跡」とは何か、発掘調査とはどのような行為なのかについて概説しつつ、考古学的思考は、具体的資料を介して、どのように接近するのか、現代から先史まで時代を遡りつつ理解してゆく。そのために、「考古資料論」について念頭におき、日本考古学の最も新しい領域となる「近現代考古学」や、中央大学文学部も所在する多摩地域の「集落遺跡」の調査事例を素材にとりあげて、概説する。

科目目的

考古資料の性格と人類史の復元に寄与する考古学的手法の役割とその積極性と限界や課題について理解し、考古学的思考とは何か、考える態度を身につける。

到達目標

あなたが、歴史・人類史を復元するための方法論としての考古学的手法や思考法について、考古資料の性格を踏まえながら、理解できるようになることをめざします。

(素材は、東京・多摩地域の発掘調査資料やそのあゆみから、現代から原始時代まで、時代を遡るように選択しています)。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス：考古資料論～「遺跡」とは何か 「遺跡」はどこにある
- 第2回 考古資料論～「遺」という言葉について、「遺産」について考える
- 第3回 近世・近代考古学の課題～江戸・東京を掘る：江戸東京博物館ジオラマにみる「0層」問題
- 第4回 近・現代考古学への視点～近現代陶磁器の変遷（震災・戦災考古学／ハンセン病療養所の調査）
- 第5回 多摩地域の古代・中世考古学～水田はいつから水田か？ あきる野市砂沼谷戸の調査
- 第6回 多摩地域の古代・中世考古学～日野市落川・一の宮遺跡の調査
- 第7回 多摩地域の中世考古学～高幡高麗氏の足跡
- 第8回 多摩地域の中世考古学～立川氏館跡を掘る
- 第9回 多摩地域の中世考古学～戦国の終わりを告げた八王子城／再び「遺跡」について考える
- 第10回 弥生時代～古墳時代～卑弥呼の時代の雑穀栽培のムラ
- 第11回 「遺跡の範囲」の外（沖積低地）に眠る弥生集落について考える
- 第12回 縄文時代～縄文集落研究の現状と課題① 調査史と資料論
- 第13回 縄文時代～縄文集落研究の現状と課題② 展望と課題
- 第14回 まとめ～現代考古学の課題について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 60% | 期末レポートを提出してもらいます。授業内容を踏まえていただき、自分の意見や理解したことなどを論じてもらい、その内容で評価いたします。 |

平常点 40% 各回の講義終了後に、授業に関して感想・質問・意見などを小レポートとして提出してもらいます。manaba
を利用します。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

日本考古学協会員 (日本考古学)
主な発掘調査・報告実務経験：八王子市宇津木台遺跡群、調布市原山遺跡、日野市落川遺跡、同南広間地遺跡、立川市立川氏
館跡、あきる野市前原・大上、砂沼、水草木遺跡、豊島区長崎並木遺跡、群馬県草津町重監房跡地など。
市史編さん：田無市史、八王子市史、小金井市史、羽村市史、清瀬市史

実務経験に関連する授業内容

講師が、自らの発掘調査・報告経験を踏まえて、考えてきたことを中心に、話題提供をいたします。

テキスト・参考文献等

とくに教科書は指定いたしません。
講義の事前に適宜、manabaを通して資料を配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考